



世界一小さな音楽祭「第21回小竹の森音楽祭」を開催 ～音楽家・芸術家が多く住む小竹町の音楽祭～

と き 10月19日(土) 午後2時～4時(開場は1時30分)
※入場無料だが整理券が必要。整理券は当日午前10時から小竹小学校門前で配付。

と ころ 区立小竹小学校体育館(小竹町2-6-7)

19日、区立小竹小学校体育館で、「小竹の森音楽祭」が開催された。地元の小竹町会、小竹小学校(泉崎春海校長、児童数253人)、同小PTAが協力して開催する地域をあげた手作りの音楽祭で、今年で21回目を迎えた。

小竹小学校の周辺は、武蔵野音楽大学や日本大学芸術学部があることから、音楽関係者やプロの演奏家が多く住んでいる。こうした地域特性から、地域住民を中心に約250人が参加。また、450人を超える観客が訪れ、合唱や演奏に盛大な拍手をおくっていた。この音楽祭には、出演だけでなく、企画から舞台づくりにも多数の住民がボランティアとして参加。地域を挙げての音楽祭として、親しまれている。

今年は、21回目の開催を迎えた「新生小竹の森音楽祭」として、オーケストラ演奏には、練馬区で活躍している「練馬交響楽団」を初めて迎え、また映像撮影に日本大学芸術学部映画学科の協力を得るなど、小竹町地域に新たな音楽の絆が生まれた。

主催：小竹町会(佐藤健治会長)/協力団体：小竹小学校 小竹小学校PTA /平成25年度「地域の底力再生事業助成」対象事業



音楽祭の様子

【音楽祭が始まったきっかけ】

平成5年に、当時の校長が地元のプロの音楽家を交えた音楽祭を提案。この提案に地元の小竹町会や小竹小PTAが賛同し、校庭の一角にある森にちなんで「小竹の森音楽祭」と名付けられた。

現在も、3者の代表からなる委員会が企画から運営、音響、照明など全てを担っている。今年も約150人が運営に携わった。「世代を超えた心の交流を深める、子供から大人までが音楽の感動を味わう、子供たちの故郷をつくる」をテーマに、今回で21回目の開催を迎えた。

【今年は、“新生”小竹の森音楽祭に注目！】

第1部では、小竹小学校児童の吹奏楽や合唱、お父さんやお母さんたちのコーラス、武蔵野音大生によるピアノ連弾の演奏が行われた。日頃の練習の成果を披露しようとして一生懸命演奏する姿に、会場はあたたかい拍手に包まれた。

第2部では、小竹小吹奏楽部のOBを含む地域で結成されたウィンドオーケストラや、小竹の森音楽祭には初めての出演となる「練馬交響楽団」の演奏。質の高い演奏に触れて、観客は音楽の素晴らしさを体感していた。

最後は、「小竹の森音楽祭」のテーマ曲「大空高く」を会場の全員で合唱して締めくくった。「大空高く」は、第1回の音楽祭を企画する中で作られた曲で、当時の校長が作詞、保護者が作曲を担当した。小竹町の雰囲気や音楽祭への思いを盛り込んだ曲になっており、オーケストラの演奏のもと、フィナーレで歌い継がれている。出演者と観客、そして運営スタッフ全員がひとつになって声を合わせ、今日一番の拍手とともに、音楽祭は幕を閉じた。

【問い合わせ】小竹小学校 電話 03-3956-8391